



Interview01 共に支える

地域に広がる 優しい味と笑顔

「どの味にしようかな」。訪れた人が見つめるのは、ケースに並び色とりどりの手作り団子。あづみ野だんごでは、障がいのあるスタッフと事業所職員の皆さんが団子の製造と販売を行っています。運営する安曇野かんぱに一の河原さんに話を聞きました。



NPO 法人あづみ野 安曇野かんぱに一 施設長 河原 淳史さん (59)



①バーナーで仕上げる「こがしみそ」。香ばしい香りが広がります②出来たてをケースに並べて開店準備③オリジナルの「あーもんどみそ」④この日は開店と同時に多くのお客さんが来店。心を込めて団子を渡します

安 オープンまでの険しい道のり
 曇野かんぱに一は、一般企業などで就労が難しい障がいがある人が雇用契約のない形で働いたり、過ごしたりする就労継続支援B型事業所です。現在は精神障がいのある人などが、自分のペースで活動しています。以前は梱包や清掃などを中心に行っていました。作業の収入に応じて支払う工賃が少ないことが課題でした。また、障がいのある人が多くの人とつながりながら働ける場を作りたいという



障がいのあるスタッフがそれぞれの特性を生かして働けるよう、仕事の進め方には工夫を凝らしています。同時に複数の作業を行うことは難しいので、1つの作業に集中できる手順を考えてマニュアル化し、スタッフに合わせて担当する仕事を調整しています。オープン以来、さまざまな世代のお客さんが来店してくれています。開店前から並んで待っていてくれるお客さんの列を見た時は、驚きとうれしさが込み上げました。課題だった工賃も以前の倍以上になりました。ただ、最も大切にしているのは事業所に通う全員が「ここに来ると楽しい」と思える場所であり続けること。これからも共に支え合い、地域に愛される店・事業所を目指していきたいです。

特性を生かし働ける場所に
 思いもあり、新しい事業の立ち上げを考えました。工賃の課題を解決するには多くの人に事業所の自主製品を知ってもらい、購入につなげることが必要です。そこで他の事業所で取り扱いがなく和菓子の中でも味のアレンジがしやすい団子に注目し、差別化を図りました。しかし、団子作りは私たち職員も初めての経験。知り合いの紹介で専門店で作る方を学び、技術を身につけました。そして構想から5年、念願が実現しました。オープンができました。

特集 あなたらしく、わたしらしく

～障がいを知る、心で見つめる～



困障がい者支援課 Tel 71-2083

人 それぞれ得意なことや苦手なことが違うように、生活の形も人それぞれ。今月は障がいのある皆さんと共に支え・歩み・つながり合う皆さんの声と、共に関わり過ごすことで生まれた日常を紹介します。誰もが自分らしく、心地良く暮らしやすいと感じるために、知ることから始めてみませんか。

Voice 自分の「好き！」が生かせる仕事



有賀 敬晃さん (27)

おススメは「こがしみそ」!!

接客を担当しています。お客さんから「また来るね」と言ってもらえる瞬間が一番うれしいです。時には自分がおすすめした団子を買っていただけることもあります。人と関わることが好きなので、自分の好きなことを生かせるぴったりの仕事だと思います。

Column 看板の裏面に込められた思い

「障がいがある・ないに関わらず誰もが凸(得意)凹(苦手)な部分をもって生きています。ここで働くスタッフも皆様より凸(得意)凹(苦手)の差が大きく、1人ひとり違う特性をもち、1人ひとり違う目標をもつ仲間です。」

「障がいのある人が働いている店」ではなく、「地域の団子屋さん」でありたいという思いが込められています。



障害者手帳所持者の内訳 (令和5年度末時点)

身体障害者手帳	3437人
療育手帳	960人
精神障害者保健福祉手帳	1430人
計	5827人(延べ人数)

主な障がいと障害者手帳の種類

障がいには主に3つの種類があり、障がいによって持つ障害者手帳も異なります。市内では5827人(左図参照)が障害者手帳を持って生活しています。

身体障がい 視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、内部障害(内臓や免疫機能)など ▶ 身体障害者手帳	知的障がい 18歳頃までに知的機能の発達に遅れが現れ、日常生活で適応しにくさが生じる障がい ▶ 療育手帳	精神障がい 統合失調症、気分障害、てんかん、薬物依存症、高次脳機能障害、発達障害など ▶ 精神障害者保健福祉手帳
---	---	---